北海道クルーズ振興協議会　プレスリリース　　2022.7.22

「にっぽん丸」乗船モニター
小樽発着、利尻島と羅臼を巡るクルーズ旅行

クルーズの「魅力」を是非体験してください！

　北海道の寄港地を満喫するクルーズの人気企画「飛んでクルーズ北海道」が１７年目を迎えました。
　みなさまにクルーズをもっと身近に感じていただくため、商船三井客船（株）様の協力をいただき、「にっぽん丸」で航く道内３泊４日のクルーズ乗船モニターを募集いたします。

乗船モニター募集　１組２名

８月28日（日）～ 8月31日（水）

小樽港発着Bコース（小樽～利尻島～羅臼～小樽）

※「羅臼」では通船により上陸予定です。天候によっては上陸できない場合もありますのでご了承願います。通船による乗下船には30分～60分を要します。

にっぽん丸　　商船三井客船（株）

総トン数：22,472トン　船客定員：199室449名 全長：166.6m　全幅：　24.0m

（問い合わせ先）
北海道クルーズ振興協議会事務局
北海道運輸局 海事振興部 旅客・船舶産業課　林・柴田
札幌市中央区大通西10丁目　札幌第2合同庁舎
TEL：011-290-1011　FAX：011-290-1021

（同時発表）
北海道運輸・航空記者クラブ、小樽市政記者クラブ、函館市政記者クラブ、旭川市政記者会、稚内記者会、室蘭市政記者会、苫小牧市政記者クラブ、釧路市政記者クラブ、北見記者会市政クラブ

「にっぽん丸」乗船モニター応募要領

※インターネットでの応募のみとなります。（ハガキでの応募はできません）

飛んでクルーズ北海道　小樽港発着Bコース　１組２名
○コース　小樽～利尻島～羅臼～小樽
○行　程　８月28日（日）～8月31日（水）
○船　室　スーペリアツイン

知床半島通過時に刻々と変化する世界
自然遺産の風景を楽しめたり北海道の
旬の食材をふんだんに使ったお食事を
堪能できる、魅力たっぷりの船旅です。

《応募条件》
１．令和４年８月２８日（日）から８月３１日（水）までの「飛んでクルーズ北海道　小樽港発着Bコース」(小樽～利尻島～羅臼～小樽）に、クルーズモニターとして乗船できる方に限ります。
２．モニター乗船の終了後、簡単なアンケート及び体験期間中の感想文（乗船中や寄港地での観光等800字程度）及び写真（10枚程度）をすみやかにご提出いただきます。
３．クルーズの様子を可能な限りＳＮＳで発信することに協力できること。

《応募方法》
インターネットによる応募に限ります。
下記の「必要入力事項」をメールに直接記載の上、下記メールアドレスまで送信してください。
その際、件名は「モニタークルーズ応募」として下さい。
なお、クルーズ以外の乗下船地（小樽）までの交通費や船内における有料サービスの利用等については、料金をご負担いただくことになります。また、権利の譲渡および換金はできません。

○必要入力事項
①郵便番号・住所
②電話番号
③氏名（ふりがな）
④生年月日および年齢
⑤性別
⑥同行者の方の①～⑤の事項
⑦応募者の方と同行者の方の間柄
⑧クルーズ歴（初クルーズでも可）
⑨応募の動機

○応募メールアドレス
hkt-hok-kaijishinkou@mlit.go.jp

《応募締切日》
８月7日（日）【必着】とさせていただきます。

《当選者の決定および発表》
応募者多数の場合は、関係者立会いのもと、厳正なる抽選により当選者を決定します。
当選された方には、別途お知らせするとともに、北海道クルーズ振興協議会のホームページ（以下のURL）にて、8月15日（月）（予定）に「お名前」のみを発表させていただきます。
なお、当落に関するお問い合わせはお受けできませんのでご了承願います。
https://wwwtb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/kaiun/cruise/cruise11.html

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更、延期または中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※事前および乗船当日のPCR検査（船会社指定）を2回実施します。
（新型コロナウイルスワクチン接種がお済みの方も、本対応が適用となります。）
※事前のPCR検査の実施については事前郵送式として出港日約1週間前にPCR検査会社からお客様へ直接検査キットが郵送され、ご返送していただきます。
※出港当日検査は、14:30に小樽タイムスガーデン（小樽市港町５番４号）にお越しいただき検査実施、小一時間後結果が出て陰性であれば15:30頃乗船となります。
※にっぽん丸では新型コロナウイルス感染防止対策（別添）を実施しております。
※皆様からご提供いただきました個人情報につきましては、今回の利用目的以外には一切使用いたしません。また、モニター終了後、速やかに、かつ、適正に削除・廃棄いたします。

にっぽん丸 COVID-19 感染防止対策

2022年５月２日

商船三井客船株式会社

感染症対策を講じた運航

- JOPA GLに準拠したマネジメントマニュアル策定
  （衛生管理規程）
- 日本海事協会(NK)による認証(鑑定書)取得
- 乗客数　最大定員の7割（約３５０名様）
- 発着港、及び寄港地の感染拡大や医療ひっ迫状況により、地方自治体からクルーズ催行中止要請が出された場合は、船社としてこれを尊重する

NIPPON KAIJI KYOKAI

STATEMENT OF COMPLIANCE
FOR
Biosafety Management System (COVID-19)

No. : KC2085-002

M.V. "NIPPON MARU"

IMO Number:	8817631
Port of Registry:	Tokyo, Japan
Type of Vessel:	Cruise Ship
Gross Tonnage:	22,472

THIS IS TO CERTIFY, at the request of Mitsui O.S.K Passenger Line, Ltd. , that biosafety management system of the subject cruise ship is in accordance with ClassNK Cruise ship safety management system guidelines for COVID-19 and the operations and procedures regarding biosafety management system are in place complying with the guidelines.

Any reductions of the above operations or procedure may render this statement of compliance invalid.
This statement is valid until 15th October 2025 subject to continued compliance with the related Guidelines and periodical audit.

Issued at Tokyo on 16th October 2020

NIPPON KAIJI KYOKAI
(J.I. Takano)
EXECUTIVE VICE PRESIDENT

ClassNK

感染症対策の三つの柱

- ✓ 感染者乗船のリスクを減らす ⇒ **持ち込まない！**
- ✓ 船内での感染リスクを抑える ⇒ **うつさない！**
- ✓ 感染の拡大リスクを抑える ⇒ **広げない！**

感染者が乗船するリスクを減らす(1)

予約条件設定によるスクリーニングと乗船前PCR検査

乗船日前日より遡って14日以内に、以下に該当するお客様は、ご家族・ご同行者・ご同室者の方も含め、ご乗船をお断りする。

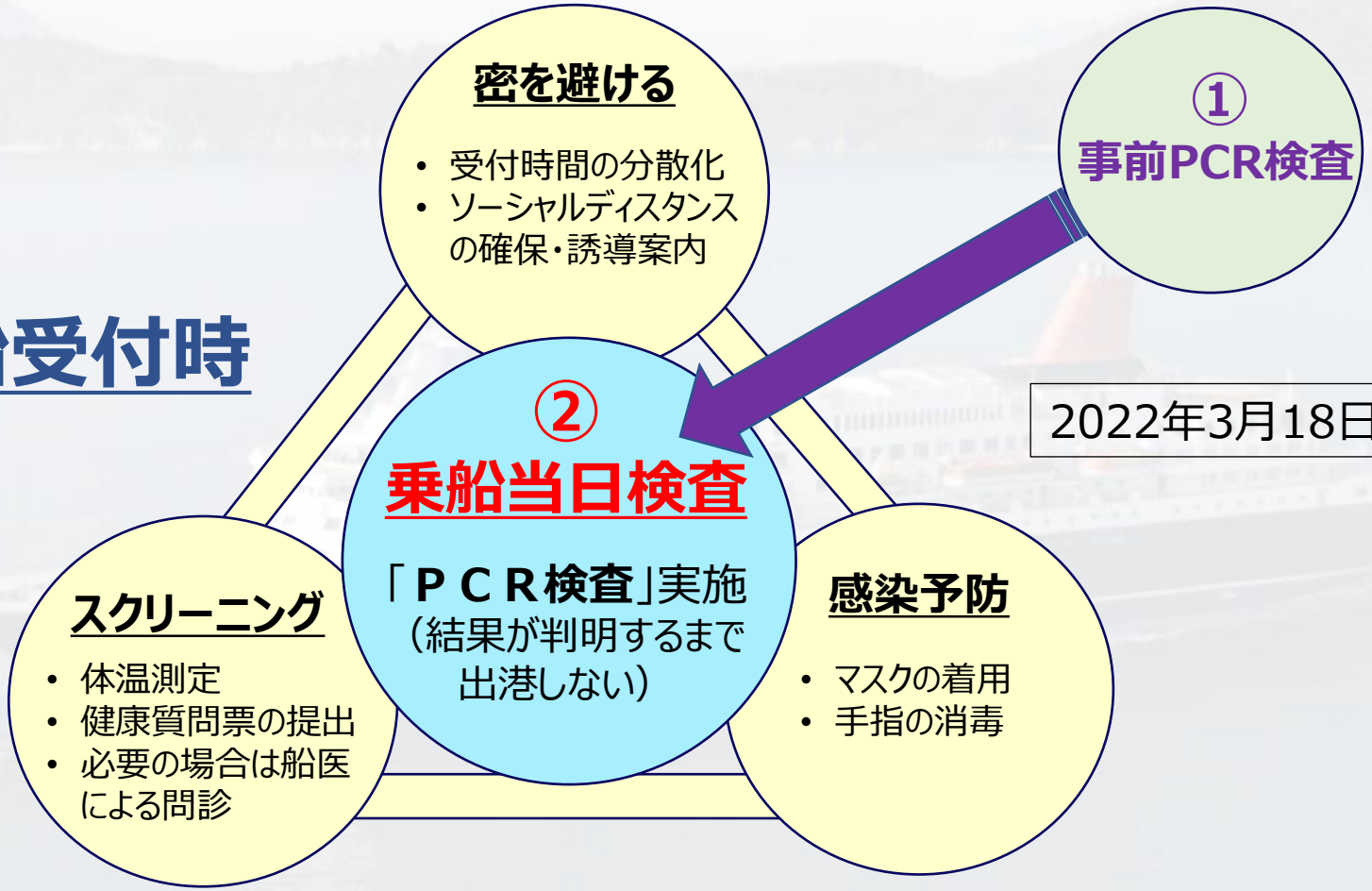
- ✓ 37.5℃以上の発熱があり、咳、のどの痛み、筋肉痛（運動によるものは除く）、倦怠感、息苦しさ、味覚・嗅覚の異常などの症状を有した方
- ✓ 海外渡航歴を有する方
- ✓ 新型コロナウイルス感染症と診断された方、もしくは感染の疑わしい方と濃厚接触（※）をした方

  ※ 手で触れることの出来る距離（目安1メートル）で、必要な感染予防策なしで15分以上の接触（交通機関等公共の場での一時的な接触は除く）

- ✓ 乗船前PCR検査を受けていない方、また検査結果が低リスクでない方

感染者が乗船するリスクを減らす(2)

乗船受付時



2022年3月18日現在

健康質問票の回答及び体温測定の結果を踏まえ、乗船に適しない場合、
該当のお客様とその同行者の乗船をお断りする。

感染者が乗船するリスクを減らす(3)

乗組員の乗下船管理

- ✓ 乗船日14日前以降の行動を制限、注意喚起
- ✓ 健康状態確認票により、毎日健康状態を確認
- ✓ 乗船前PCR検査の実施（結果が出るまでは隔離）
- ✓ 隔離場所(宿泊施設）から専用車で直接乗船
- ✓ 乗船日当日は再度、乗船時に健康状態を確認
- ✓ 乗船中は毎日２回以上の体温測定を実施
- ✓ 下船時、外国籍乗組員に帰国後の連絡先を確認
- ✓ 各種確認記録や検温記録の保管

乗組員の乗船スキーム（ウィルス検査体制）

日本人乗組員

乗船前
自宅で検体採取
PCR検査
→ 低リスク →
ホテルで3日間隔離
→
乗船当日
船外にて検体採取
PCR検査
→ 陰性 → 乗船
船医による問診後、就業

乗船当日 → 陽性 → 隔離継続 → 保健所指示に従う

フィリピン人乗組員

2022年５月２日現在

フィリピン出国
7日前から個室隔離
当日または前日に
PCR検査実施
→ 陽性 → 出国不可

フィリピン出国 → 陰性 → 出国 → ✈ 日本到着時、空港にて抗原定量検査実施

日本到着時、空港にて抗原定量検査実施 → 陽性 → 入国不可

日本到着時、空港にて抗原定量検査実施 → 陰性 → 宿泊施設にて個室隔離（日本入国翌日から7日間）

隔離中
PCR検査
実施
(乗船日
２日前)
→ 陽性 → 隔離継続 → 保健所指示に従う

隔離中 PCR検査実施 → 陰性 → 宿泊施設で乗船日まで個室隔離

宿泊施設で乗船日まで個室隔離 → 乗船
(入国翌日から最短8日目)
船医による問診後、就業

当面の間、乗組員は2週間に１回の定期的なPCR検査実施

船内感染を防ぐ(1)

徹底した清掃・消毒と乗組員への教育・訓練

- ✓ 船内の区画、公室などを使用頻度によりエリア分けし、定期的な間隔で清掃・消毒を実施
- ✓ イベント会場、食事会場、接遇会場などは使用の度に備品や設備を消毒、清掃
- ✓ 消毒液や備品については、公衆衛生当局や専門機関から有効とされる物を目的に合わせて使用
- ✓ 公衆衛生の専門機関の指導により知見を備えた乗組員が清掃・消毒に従事する

認　定　証

貴殿は　当財団主催の環境衛生実務者研修会　環境衛生管理者コースを履修し必要な知識と技能を修得したと認められましたので認定証を授与します

環境衛生管理者　No.[redacted]

令和　2年　6月　26日

公益財団法人
国際医療福祉教育財団
理事長　大森順子
研修委員長　足立康秀

環境衛生管理者を取得した乗組員には
認定証が交付されました

船内感染を防ぐ（2）

ソーシャルディスタンスの遵守、サービスの一部変更

- ✓ 船内で行列が発生し得る場所で、物理的な距離を取るよう事前準備、案内と誘導。
- ✓ 受付カウンター、イベントステージなどでクルーとお客様との物理的距離を確保。
  （座席間隔１ｍ以上、最前列と舞台の間隔２ｍ以上など）

- ✓ 密集、密接が想定される場所での座席数を削減、予約制や入場制限を行う。
  （ラウンジ、バー、ショップ、大浴場、スパ＆サロン など）
- ✓ サービススタイルの変更、一部サービスの中止。
  （ダイニングでのビュッフェ・セルフサービス、サウナ、ソシアルダンス、麻雀などのテーブルゲーム）

その他にも各所で仕切パネルの設置などで飛沫感染防止策を講じています。

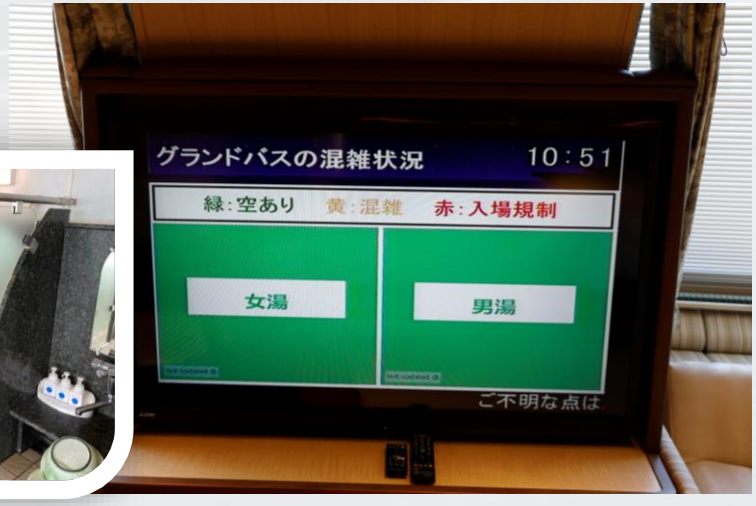
船内の感染症対策

アクリル板パネルの設置

座席の制限

自動水栓（共用施設）

大浴場での感染予防



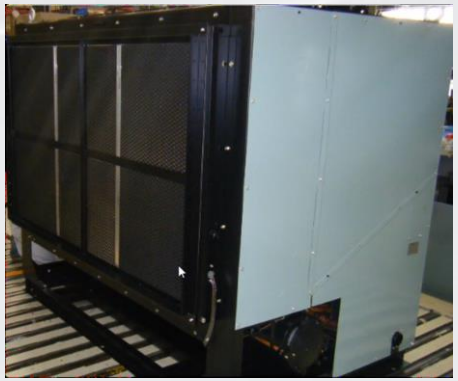
ＣＯ２モニターの導入

船内感染を防ぐ(3)

100%新鮮な空気と空調除菌装置

- ✓ 全客室および乗組員居室と公室の一部は、100%外部からの新鮮な空気を提供。（１時間に６回の換気が行われる。）
- ✓ 循環空調となっている区画の送風機に、感染症病棟で主に採用されているUV-C（紫外線C波）殺菌ライトを新たに設置。
  （６-７階公室、第一および第二区画乗組員居室、　乗組員食堂区画など）
- ✓ 船舶空調向けの抗菌フィルターを導入、ウイルス低減化を図る。

空気清浄機の設置



寄港地ツアーにおける感染症対策

- ✓ 観光施設、食事場所の感染防止対策を事前に**確認**
- ✓ 利用する観光バス、タクシーの出庫前車内消毒
- ✓ ツアー出発前／帰着時の体温計測
- ✓ ツアー参加中のマスク着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保
- ✓ ツアー参加中の健康状態の把握、体調不良の場合は途中離団を依頼
- ✓ バス内座席は間隔を空けての着席
- ✓ バス車内、昼食場所等において、大声での会話は控えていただく
- ✓ 自由行動希望者は、行動予定表を提出し、飲食を自粛頂く。

感染拡大を防ぐ

有症者の早期発見、隔離、検査

- ✓ 濃厚接触者特定アプリ導入（ダイニングなどマスクを外して飲食をする会場で、着席場所を記録する）
- ✓ 常設の隔離室を設定、うち1室には陰圧テントを設置
- ✓ 船医による内線電話を利用した問診
- ✓ 個人防護服（PPE：Personal Protective Equipment）を常備
- ✓ 船上PCR検査（遺伝子解析装置、測定キットの導入）

有症者の感染が確認された場合の対応

有症者発生
PCR検査
「陽性」判定

船内イベント及び
施設使用の中止

次の寄港地に感染者
受け入れを要請

速やかに最終下船港へ

- 有症者／感染者の隔離 → 同室者は濃厚接触者として隔離 PCR検査を実施
- お客様への案内放送 → **全員自室待機**
- 安全エリアの確立
- 濃厚接触者の特定 → 濃厚接触者は隔離 PCR検査を実施
- 搬送先の港や保健所へ連絡
- 濃厚接触者の帰宅経路や宿泊先の紹介
- 乗組員の感染予防徹底など

本社にコロナ対策本部設立　関係機関との連絡・協議、商船三井との連携
現地対策班（ケアセンター）、メディア対応

濃厚接触者(候補者）の特定

テーブル毎の
QRコードと
乗船証を
読み込み、
着席場所を記録

公室の入退場を
乗船証をかざして
読み込み記録する
(サーモカメラ
機能付き)

ポスト・コロナ時代にますます求められる価値は、
「美しい海」「楽しい船内」「美味しい食事」
そして「お客様の笑顔」